

その2. 日蔭名栗山南尾根を登り、水根に下る

報告：T.F.

◎期日：2022年5月30日 ◎メンバー：T.F.（単独）



（ブナなどの新緑がとても綺麗だった日蔭名栗山南尾根）

日蔭名栗山南尾根は吉備人出版の奥多摩詳細図にはルートが掲載されていて、「道標無し。熟達者向き」とある。所謂バリエーションではあるが、地図をよく見ると特に難所はなく、しかも単純に北に向かって尾根を詰めていけば良いルートなので、近年体力や脚力などの低下が気になるが、今ならまだ歩けるだろうとひとりで出かけることにした。

下山予定の水根に駐車し、6:28 発の路線バスに乗り換え登山口の峰谷に向かった。平日とあって、先客はハイカーの3名のみでガラガラだ。バスは奥多摩湖を離れると、峰谷川に沿ってどんどんと山奥へと走ってくれる。溪流釣り場を過ぎると間もなく、終点の峰谷に到着した。

7時にバス停をスタート。三沢橋を渡ったところの分岐で、前回は右折して浅間尾根～鷹ノ巣山に向かったが、今回は左折して峰谷林道へ。入り口のゲートは閉じられていたが、歩行者は横から通れるようになっていた。熊さんのエリアなので、熊除けにはじめて持参したラジオのスイッチを入れ、ゲートを通す。このときチョンボをしてしまった。地図や飲み物などを入れたショルダーバッグをゲート付近に置き、写真を撮ったりしたがそのまま出発していた。暫く歩いてから気づいて取りに戻ったが、10分ほどロスしてしまった。



（峰谷林道の入り口。人はゲートの横から通行）

林道のすぐ下は沢が流れており水が流れる音が心地よい。しばらく歩き、785mの分岐で鋭角に右折し沢を離れると、間もなく広場に到着した。日蔭名栗山南尾根の取り付けがあるところだ。取り付けはどこか？とウロウロ探すと、木の枝に黄色いテープが下がっており、その下に踏み跡があった。

これだ！と、先ずは一本立てる。尾根を見上げながら、軽く行動食と飲み物を口にする。ヨシッ！と気合いを入れて、踏み跡に一步を踏み入れた。

初めてのルートに登るのは新鮮で、期待感と緊張感が心地よい。登り出すとすぐに、地図にも記載されている祠があったので、「ルートは間違いなし」と再度確信し、本日の安全登山の祈願をした。



(日蔭名栗山南尾根の取り付け)



(安全登山を祈願した山ノ神の祠)

これを超えると急登となり、ダブルストックで行くが、なかなかキツイ。ひたすら尾根を詰めていくが、踏み跡は明瞭、適度にテープもあるので、安心して歩を進められる。足元はやや柔らかく、膝を痛めている身には膝に優しいのが嬉しい。

自然林が濃く展望はないが新緑の中に行くのは心地よく、ひとり黙々と歩を進めていると、突然、ギンリョウソウが群生しているのに出会った。これまで数本が生えているのは見たことがあったが、数十本が群生しているのを見るのははじめてで、驚いた。よほどこの箇所の環境が、この真っ白な腐生植物に適しているのだろう。タイミングも丁度良かったのかも知れない。



(群生していたギンリョウソウ)

尾根筋では上部が赤く塗られてた短い木の杭を数本、頭が赤く塗られた石柱や普通の白い石柱などを見たが、地図の1,261m地点は、もしかして見過ごしてしまったのかも知れない。



(赤い木の杭(8))



(赤い石柱。更に15分ほど上には白い石柱もあった)

少し岩を見るようになると更に急になったが、我慢してゆっくり登っていくと、石尾根縦走路に飛び出した。1,630mあたりと思う。目の前に「林班界標識 79/一」が立っていた。

石尾根縦走路は歩きやすそうだが、今回は日蔭名栗山南尾根を最後まで詰める計画。山頂への直登は地図によると、これより245mで、難易度の高い径を示す破線になっていた。どこから取り付こうかと踏み跡を探したが見つからず、最も登りやすそうなところから登りはじめた。岩混じりの林を抜けると、すぐに防火帯のように開けているところに出た。それが上部までまっすぐに続いており、視界が一気に開けた。

少し登っていくと、一人が歩いたわずかな痕跡を数カ所見たが、踏み跡と言えるものは見なかった。足元は柔らかいうえに急で、疲れた足にはきつく、適度にジグザグを切って休み休み歩を進めていくと、鹿？か何かの動物の足跡を見付け、鹿さん？もこの辺りを歩いたのだと何だか楽しくなり、元気を貰ってようやく稜線の縦走路に合流した。一般登山道は実に歩きやすく、ルンルンと行くと、すぐに日蔭名栗山の山頂(1,725m)に到着した。

峰谷バス停を出て4時間40分を要していた。地図のコースタイムは4時間15分であったが、10分程のロスタイムと後期高齢者であることを考えると、遅すぎることはない、と自分に甘く言い聞かせた。

山頂には手製の標識が二つあった。一つはかなり古い縦書きの標識で「日蔭名栗峰 1725m」とあり、もう一つは比較的新しい横書きのプレートで「日蔭名栗山 1725m」とあった。「縦書きと横書き」、「陰と蔭」、「峰と山」の違いは、時の流れか？と思った。

雲取山からの石尾根縦走路はこれまで何度か歩いたことがあるが、日蔭名栗山の山頂を踏むのは今回がはじめてであった。なにせこの山頂は、稜線縦走路上に位置しており、石尾根縦走路はこれを巻いている。

鷹ノ巣山方面を目指して歩き出した。遠方の山々は霞がかって良く見えないが、比較的近くの山々、大岳山、御前山や榎ノ木尾根、浅間尾根などはよく見えた。すぐ近くの鷹ノ巣山は姿が美しく、見入ってしまう。これまで何度も登っている鷹ノ巣山ではあるが、イケメンであることをはじめて知った。



(林班界標識 79/-の標柱)



(防火帯のように開けたところ)



(日蔭名栗山の古い方の山頂標識)



(近くに見えた奥多摩の山々。大岳山、御前山、榎の木尾根、浅間尾根など)



(なかなかイケメンの鷹ノ巣山。日蔭名栗山を下り始めた付近から撮影)

ルンルンと下って鷹ノ巣山避難小屋に到着、テーブルでしばらく休んでいると、平日であるが次々とハイカーがやってきて賑やかになる。その中の3人組は今朝のバスで一緒だった方々であった。

鷹ノ巣山の山頂は毎回、それなりにひとがいるものだが、この日は独占となった。しばらく山々を眺めて、下山開始とした。水根への分岐までは前回の榎ノ木尾根を辿って行き、案内標柱のある分岐で榎

ノ木尾根と分かれた。

次の分岐、水根と六ツ石山方面との最後の分岐に「水根(バス停)5.7km」の案内標柱があり、「歩道崩落 迂回路あるが嚴重注意」のプレートが付けられていた。

登山道はしっかりしており、しばらくは急坂をジグザグに下り、後は山腹を縫うように徐々に延々と下って行く。途中、樹の隙間から滝が見えたが、距離はかなりあった。しっかり整備された木橋を何カ所も渡ったが、水根沢らしい流れにはなかなかちかづかない。

崩落箇所は一体どこだろう？と気にしながら下っていくと、随分下ったところにその崩落箇所があった。少し上に巻いてから降りるようになっており、これを行くと、何とその先に林道が上がってきていた。水根沢らしい流れを少しでも近くで見たかったが、そのまま林道を下った。

やがて見覚えのある六ツ石山からの道と合流し、舗装道路を下ると 16:45、水根バス停に到着した。所要時間は 9 時間 45 分。随分時間がかかったが、計画は 17 時下山、所要時間 10 時間だったので、予定通りではあった。

「よく歩いてくれた」と足に感謝しながら、すぐ前の駐車場に向かった。

日蔭名栗山南尾根はとても印象深く、また機会を作って歩いてみたいと思う。

<当日のコースタイム>

峰谷バス停	6:50-7:00
峰谷林道のゲート	7:15-7:20
日蔭名栗山南尾根の取り付き	8:10
山ノ神・祠	8:15
ギンリョウソウの群落	9:30
木の赤い杭(8)	10:20
赤い石杭	10:30
白い石杭	10:40
石尾根縦走路に出る(「林班界標識 79/一」)	11:00-11:10
日蔭名栗山(1,725m)	11:40-11:50
鷹ノ巣山避難小屋	12:30-12:40
鷹ノ巣山山頂(1,736.6m)	13:10-13:20
石尾根への分岐	13:35
石尾根・榎ノ木尾根分岐	13:40
榎ノ木尾根・水根の分岐	14:00-14:05
六ツ石山・水根バス停(5.7km)の分岐	14:10
水根バス停	16:45 着



(六ツ石山方面と水根への最期の分岐)